

令和元年度（2019年度）第4回 函館市観光アドバイザー会議 会議録（要旨）	
開催日時	令和2年（2020年）2月7日（金）17:00～18:02
開催場所	函館市役所 本庁舎8階 第2会議室
出席委員	奥平座長，池ノ上委員，角委員，藤原委員，斎藤委員， 飯野委員，高橋委員
欠席委員	渡邊委員，佐々木委員，渡部委員，吉村委員
事務局	観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長，国際観光課長， 企画担当主査，企画担当2名

1. 開会

開 会 (事務局)	開会
開会挨拶 (座長)	挨拶

2. 議題

(1) 報告事項

①令和元年度（2019年度）上期来函観光入込客数推計

・資料1：令和元年度（2019年度）上期来函観光入込客数推計

(事務局)	(資料に沿って説明)
(奥平座長)	ただ今の説明に対し，質問や意見等はあるか。 【意見等なし】
(奥平座長)	平均宿泊数が，初めて観光基本計画の目標値タイに持ち込めたのがかなり大きいと思う。 観光入込客数は，市の活性化総合戦略のKPIにもなっており，このままの勢いでいけば良いと思っていたが，新型コロナウイルスの影響でどうなるかわからない部分はある。もし下期に何もなければ，550万人に達したかと思う。来年度はおそらく反動があり，新型コロナウイルスの問題が解決するとさらに人が増えてくる可能性があると思う。 外国人宿泊客数で台湾が減った理由の一つに，青森空港の台湾直行便の影響が出ているのではと感じている。以前は青森便がなかったので函館に入ってきた分が，もしかすると分散している可能性がある。

②令和2年度（2020年度）主な観光施策について

・当日配付：令和2年度（2020年度）主な観光施策

(事務局)	(資料に沿って説明)
(奥平座長)	ただ今の説明に対し、質問や意見等はあるか。
(斎藤委員)	2021年の話になるが、縄文遺跡群に関わる観光コンテンツ作りの様な予算はあるのか。
(事務局： 観光誘致課長)	縄文遺跡群は教育委員会の所管になるが、来てくれるのは観光客なので、普段商談会やプロモーションに行った際に、縄文をPRしている。まだ観光コンテンツそのものができ上がっていないので、でき上がればより大々的なPRができると思っている。
(事務局： 国際観光課長)	インバウンドについては、現在、コト消費の体験メニューの整理をしており、その中で縄文文化交流センターに行くことができるメニューをアジア向けの観光客に作っている。欧米豪系の観光客向けには北海道運輸局が中心となって整理しており、今年度中に整理が終わるので、来年度以降はでき上がった商品を買っていただけるようPRしていきたいと考えている。
(角委員)	チャットボットは今までにないものを新しく導入するのか。
(事務局： 国際観光課長)	外国人コンタクトセンターをチャットボット方式へ移行しようとするものである。現在、外国人コンタクトセンターは人が対応し、観光に関する各種情報に対応している。回答はメールで問合せをいただいてから原則2日以内としており、問合せを翻訳し、内容を確認し、回答を用意し、翻訳をしてから回答しているので、結構時間がかかる。このようなことを踏まえ、10月よりチャットボットを導入したいと考えている。システムについては、FAQを蓄積していき、似たような質問はすぐに人工知能で対応する。FAQの蓄積がないようなものは、有人オペレーターで対応し、次回以降FAQに蓄積していくようなものを想定している。
(角委員)	新しいものを導入するというよりは、どこかの市町村で導入されているものを使うのか。
(事務局： 国際観光課長)	委託業者に委託するが、最初はFAQの蓄積がないので、これまでコンタクトセンターに問合せがあったものを引き継いでスタートする形になるかと考えている。

(藤原委員)	来年度の海外プロモーションの計画はあるか。学生達の研修の一環として同行させていただけないか。費用は大学側で持つ。学生の研修にもなるかと思う。
(事務局： 国際観光課長)	予定があるので、後日連絡させていただく。
(藤原委員)	学生の同行は差支えないか。
(事務局： 国際観光課長)	前例がないので、検討させていただきたい。
(事務局： 観光振興課長)	B to C の場であれば、学生にPRしてもらうことも可能かもしれないが、それ以外では難しいこともある。
(藤原委員)	B to C で同行させていただきたい。学生の英語力の向上に繋がるほか、学生が地元のアピールをするのは効果があるかと思う。 現地で合流・解散する形でも構わないので、良ければ検討をお願いしたい。
(池ノ上委員)	今年度はラグビーのワールドカップ等があり、インバウンドも含めて函館に観光客が来たが、次年度の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催やウポポイの開業にあたり、函館に観光客を呼び込む計画やプロモーションはあるか。
(事務局： 観光誘致課長)	国内誘客では、さいたま市が中心となり東日本連携が組まれている。東京オリンピック・パラリンピック競技大会時には、さいたまアリーナでバスケットボールの試合が行われる。この試合に来るのはほぼアメリカ人だろうということで、ターゲティングをアメリカ人とし、その人達を東日本の各都市に周遊させようと考えている。埼玉は上越新幹線、東北・北海道新幹線、北陸新幹線の連結点となっているので、それぞれの新幹線別にカテゴリを分け、カテゴリで路線を選んでもらう。例えば、北海道・東北新幹線では今のところ塩ラーメンと餃子のカテゴリ、上越新幹線は日本酒のカテゴリとなっている。スタンプラリー形式で埼玉でパスポートを受け取った人が各所を巡ると景品がもらえる様なことを考えており、ジャパンレールパスを使うだろうということで、アメリカの発売場所でPRし、周遊を促すことを考えている。
(奥平座長)	夜景が明るくなったか暗くなったかというのは、おそらく暗くなっており、暗くなった最大の原因は街灯だと思う。街灯がLEDに変わり、上に光が出なくなって暗くなったという話があるので、LED街灯

	を検討しなくてはいけない時期もいずれ来るのではないかという気はしている。上に光が出るような対応も検討しなくてはいけないかもしれない。
--	--

③その他

	特になし
--	------

(2) 今後の観光振興施策に対する意見交換

(斎藤委員)	<p>「はこだてひかりのガーデン」を明日から2日間にわたって開催する。冬の観光客を増やさないといけないと考えており、冬の目玉の様なものが需要だと思う。市内で新たな宿泊施設が開業し、キャパシティが増えているが、聞いた話では観光客があと150万人増えないと宿泊施設が全て埋まらないと言われており、150万人増えるということは、年間で650万人程度が函館に来ないといけないと考えると、夏と同じくらい冬場に観光客が来ないと厳しいと考えている。引き続き様々な知恵を絞りながら冬を盛り上げていきたい。</p>
(飯野委員)	<p>令和元年度上期の観光入込客数を拝見して、数字は悪くないが、実感はどうかというと、おそらくどこの宿泊施設も非常に苦しんでいると思う。9月の数字を見ると、昨年ブラックアウトの影響で前年比は増えているのが当然だが、平成29年度と比べるとかなり落ちている。一方で斎藤委員がおっしゃったように、宿泊施設はなお増え続けている。見えてくる数字の良さに対して実情とのギャップを非常に感じる1年だった印象がある。数字が良ければ、本来であればそこで働く事業者も活気が出てこなければいけないのに、出てくる機運がないのはなぜかということを考えていく必要があると思う。</p> <p>現在取り組んでいる施策のうち、特にナイトタイムエコノミーや冬季観光は1、2年ですぐに効果が出るものではない。観光は手段の一つなので、持続的な地域社会のために観光があるという前提で考えると、今取り組み始めたことをどうすれば効果が早く、より多く出るか、私達も協力できることは協力していく。</p> <p>数字を見るたびに、これほど複雑な気持ちになることは今までなかった。前回の会議でも申し上げたが、宿泊施設でまあまあですと話すところがほとんどない。観光客が増えているとはいえ、そう大きく増えていない中で宿泊施設の供給数が増えているので、宿泊施設全体で少しずつ下がっているということもあるかと思うが、それだけではないような得体の知れないものがじわりじわりと来ているような不安があった1年だったと思う。</p> <p>この不安に対しては、繰り返しにはなるが、今取り組んでいることをしっかりと続けていくことが重要である。宿泊税導入の話もあるが、少</p>

	<p>ない予算の中で頑張っているのですが、今度はその取り組みを事業者も知った上でさらに協力していく必要があると思う。中間評価報告書の提言にもあったが、事業者の実務レベルの人達も市の施策にもっと関心を持ち、本当に待ったなしの状況だと思うので、漠然とした不安に対抗するためには皆で取り組まなければいけないという思いを改めて強く感じた。</p>
(高橋委員)	<p>函館善意通訳会は外国人にガイドをする団体である。函館に来ていただいた外国人の方に函館の良いところを紹介して気持ちよく帰っていただく活動をしている。外国人のうち90%がクルーズ船の乗客であるが、現在、新型コロナウイルス関連肺炎の影響により問題が発生しており心配している。</p> <p>ガイドを行う前にメールでのやり取りをしており、インターネットやAIが活用され非常に便利な世の中になりつつあると思う。ガイド終了後に依頼者より様々な礼状が届く。私達は人と人との関わりを大事にしたいと思っているので、そこは変わらずに活動していく。函館の良い面をアピールして多くの方に来ていただきたい。そのほかに市からの依頼でブロガーやインフルエンサーの方に同行し案内したこともあり、そのようなことをしながら貢献していきたいと思っている。</p>
(藤原委員)	<p>これまで様々な大学での取り組みを紹介してきた。大学はあくまで教育機関なのでできることには限りがあるが、一つとても良い点があり、学生なので人件費がかからない。毎年ゼミ生が20～30人程度いるので、様々なイベントが何とかなると思うので、その際に尽力できるよう協力体制を組んでいければ良いと思っている。社会全体で学生達を教育するという意味でも非常に大きい。学内に閉じこもっているとどうしても視野が狭くなったり、実際の大人の働きがどのようなものかわからなくなってしまっているので、皆様に様々な経験を教えていただきたい。その一環として、明日、シエスタで「アイデアと街を繋ぎ函館の未来を創る」というイベントを開催する。学生達のアイデアを発表してさらに磨いていくイベントも多くあるので、このような学生達のアイデアを拾い、皆で函館を盛り上げていければ良いと思う。</p> <p>得体の知れない不安はあると思うが、観光客数をとことん増やせば心配ないと思う。増やすには基本的に入口をとことん増やすか出口をとことん絞るしかなく、出口はなかなか絞るのが難しいと思うので、入口を増やすしかない。コンテンツを多様に用意してどのような人でも楽しめるような函館らしい豊かなまちを作っていければと思う。</p>
(角委員)	<p>この会議は観光という観点で数字を見たり議論するのが主目的と認識しているが、これまでに出席した会議では、観光だけ切り出すというよりは、社会の持続性や地域の持続性を考え、住民の幸せや日常と繋げ</p>

<p>(池ノ上委員)</p>	<p>て考えるべきではないかという議論を聞かせていただき勉強になった。そのような意味から考えると、宿泊施設が増えることを単純に喜ぶべきではないと感じる。大手企業や外資によるものばかりでなく、地元の企業が中心になって、地域の持続的を考慮しながら観光産業を見ていく必要性に改めて気づかされた。</p> <p>未来大学は地域との連携を意図した取り組みを行っているので、引き続き我々の専門性を活かした貢献ができればと思っている。学生と話していると、せつかく4から6年間函館に住んでいても、西部地区や函館周辺に出る機会は限られているようだ。卒業するとほとんどの学生は函館を離れてしまうとお叱りを受けることもあるが、考えてみれば彼らは各地で函館アンバサダーとして活躍してくれる可能性があり、日本中、世界中の各地で函館の良い思い出を周辺に語ってくれるように、まずは学生達に函館を楽しんでもらうようにできたらと思っている。</p> <p>先ほど藤原委員がおっしゃっていた経済という目で見ると、入口と出口も大事だが、飯野委員がおっしゃっていた函館の中での波及効果というか、どのように副次的にお金が回っていくかも重要かと思う。</p> <p>私が次年度このようなテーマで活動したいと思っている話をさせていただく。函館で食と観光について考えていけないかと思っており、具体的に何ができるかを考えている。斎藤委員がおっしゃっていた縄文文化も「食」がキーワードの一つになると思う。遺跡や出土した土器ももちろん大切だが、それだけではなかなか人に繋がらないので、現在道庁で世界遺産登録後の縄文文化についての懇談会を開催しており、私も出席しているが、そこでも一般の人達にどうすればわかってもらえるかといった議論をしている。そこでやはり「食」なのかなと思う。一方でコンテンツがなかなかないという話もあり、例えば、函館の郊外にはたくさん生産者の方がいる。直接の「食」ではないかもしれないが、そのような自然環境をどのように楽しむか、またどのように楽しんできたかといったことを繋いでいき、何かできないかと思う。一般的にグリーンツーリズムやエコツーリズムと言われてたり、あるいは都市民と生産者の交流や六次産業化などといったところをもう少し具体的な形で進めていけないかと思っている。最近、函館の市街地でも生産者が集まりマルシェを開催している。私もまちづくりに関する様々な活動をさせていただいているが、そうした活動がきっかけで、新たな取組に発展した話を聞くなど、少しずつ繋がりができているので、そのようなものを進めていけるような手伝いをしたいと思っている。一方、生産者と話をしていると、私の専門分野である都市計画も含め、新たなことにチャレンジすることについてハードルが結構あり、やりたいとは思っているけれど都市計画法や農地法の関係でできなくて困ってしまうということがある。それを突破する市の施策があるといいと思う。とくにグリーンツーリズムやエコツーリズムをどう進めるかといった観光側の方策がある</p>
----------------	---

<p>(奥平座長)</p>	<p>とそこに答えが出せるかもしれない。そのようなところを市とも話し合い、協力しながら進めていければ良いと思う。これらのことを進めていくことで、経済への波及効果のみならず、コミュニティづくりのような社会への波及効果、縄文文化のように文化への波及効果といった経済・社会・文化、この3つの波及効果を同時に出せないかと考えている。</p> <p>ナイトタイムエコノミーがきっかけで皆様の話が進んでいった気がするが、ナイトタイムエコノミーは平成9年から10年にかけて既に始まっており、大門横丁がその始まりだと思う。私は当時の委員を務めていたが、最初に大門横丁を作ったときはかなり批判的な意見があった記憶がある。それがもう20年ほど続いてきたが、大門横丁だけではなく、空き地だった周りのまちまで変わってしまうことが起きた。ということを見ると、第三者的に見ると疑問に思うかもしれないが、続けていくことで何らかの効果が出てくると思う。大門横丁の経済効果もかなり大きいと思う。大門横丁のお店は地元のお店なので当然地元にお金が落ちる。大門横丁が実はナイトタイムエコノミーのきっかけになるのかなと思う。大門横丁の場所を変えた版がバルである。バルも最初は批判的な意見があったが、今や全国からお客様が来るようになり、観光資源に生まれ変わったと考えると、函館ではできることをやっている。ただ、少し目立っていないのかもしれない。ナイトタイムエコノミーはうまくやればさらに活気を拡大できると思う。冬場は厳しいので夏場だけでもできれば良いと思っているのはグリーンベルトである。産業遺産とも呼べる見事なグリーンベルトがあり、非常に広いので何かに使えないかと考えている。私が小さい頃は、自由市場の前にあるグリーンベルトでイベントを開催していた記憶がある。グリーンベルトは市内にたくさんあるので、場所はたくさんある。都市計画の法律関係でクリアしなくてはいけない部分もあるかと思うが、グリーンベルトが使えないことはないのかと思う。例えば、土方歳三の慰霊碑の近くで慰霊祭を行うなど、様々な案を膨らませていくのも良いと思う。先ほど、飯野委員がおっしゃっていた見えない不安というのは、昔、湯の川温泉街で道内資本の会社が数多くの宿泊施設を建設し、中小の旅館がほとんどなくなってしまったことと似ているのではないかと。今回は同じようなことが全市で起きかけしており、注意深く見ていく必要があると思う。当時は、観光客数が年150万人、200万人増えるような勢いがあったので何とか他の地域に波及はしなかったが、今回は全市で宿泊施設の開業が始まっているので、もし観光客数が200万人増えなければどうなるかと考えると、空恐ろしい部分がある。そこを見越して、ナイトタイムエコノミーは、経済的には観光客だけではなく市民も出掛けられるような仕掛けが必要なのかと思う。宿泊税もいよいよ活用できる時期が迫っているので、上手く使うことができれば市民も納得できる部分も出てくるかと思うので、そのような方向性も出していただきたい。</p>
---------------	--

3. 閉会

閉 会 (事務局)	閉会
--------------	----